

# 彩の歳時記

平成三十年 三月

春の朝(あした)

時は春

日は朝

朝は七時、

片岡(かたおか)に露みちて、

揚雲雀(あげひばり)なのりいで

蝸牛(かたつむり)枝に這い、

神、そらに知らしめす、

すべて世は事も無し。



「すべて世は事も無し」は、児童文学『赤毛のアン』のラストシーンでアンがつぶやく言葉に引用された

「神、そらに知らしめす／すべて世は事も無し」

英の詩人・ブラウニング(1812-1889)の詩の一節。

長閑な春の日にピタリな名詩『春の朝(あした)』は

1905年刊行の上田敏【1874-1916】の訳詩集

『海潮音(かいちょうおん)』収録の一篇。上田は卓抜

した語彙力と想像力で「英・独・仏・伊」の詩を翻訳

し「落葉：秋の日のヴィヨロンの」や「山のあなたのの

空遠く」などの名訳で後の詩人達に多大な影響を。

現代の目まぐるしさから離れ、春の朝のひと時を美しく

優しく、そして懐かしい日本の言葉に身を委ね、生気を取り戻したいものです。



## 三月の暦

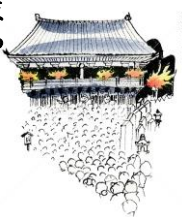
**弥生** 弥は「弓をゆるめる」の意味で「いよいよ、ますます」の副詞が転化。

**生物がいよいよ、ますます、生まれる月。**他に、「**桜月**」「**桃月**」

一日〜十四日 奈良東大寺修二会 日本の仏教寺院で行われる法会のひとつ。

十二日〜十四日の二月堂お水取り・《本尊に捧げる一年分の香水を井戸から

汲み上げる》は、午後七時に大鐘が撞かれ、それを合図に「お松明(たいまつ)」が始まる



## 三日

**雑祭・桃の節句・上巳の節句**(三月上旬の巳の日)。五節句の一。季節の変わり目は

邪気が入りやすいため、水辺で穢れを払う習慣が**人形**に穢れを移し川に流した

「**流し雛**」が原点。江戸時代に現在のような形式に。**桃**には邪気を払う霊力がある

とされ「**桃太郎**の鬼退治」は**桃**の邪気払いに由来。



## 六日

**啓蟄**【二十四節気】啓はひらく、蟄は巢虫などの巢。地虫穴を出づ。蜥蜴穴を出づ。

## 六日

**菊池寛忌**

文芸春秋を創刊「文芸春秋社」を創設し、芥川賞、直木賞を制定した。

大映初代社長や報知新聞客員を務め、得た資産で、川端康成、横光利一、小林秀雄等新進の文学者に金銭的な援助をした。芥川龍之介らと親交を結ぶ。戯曲「父帰る」

「藤十郎の恋」、小説『真珠婦人』など。生地の高松に記念館。名を冠した「菊池寛賞」がある。



十日 東京大空襲記念日 1945(昭和20)年 死者約十万人、焼失家屋約二十七万戸という、第二次大戦で

最大級の被害を出しました。

十一日 東日本大震災発災の日 平成23年(2011)のこの日14時46分に、宮城県沖の海底で発生、

地震の規模はマグニチュード(Mw)9.0とされ、このときまでの日本観測史上最大。

死者・行方不明者はあわせて1万6千人以上、建物は全壊・半壊あわせて60万戸以上。

十日(旧二月二十日)

**朧月夜**

てりもせず 曇りもはてぬ 春の夜の 朧月夜に しくものぞなき

(源氏物語)

十四日 ホワイトデー・1980年にバレンタインデーのアンサーデーとして定着。

二十一日 春分の日【二十四節気】

春の彼岸(十八日〜二十四日)の中日。

二十五日 桜始開【七十二候】

さまざまの こと思い出す さくらかな

## 三月の歌

春の唄 昭和十二年(1937)

詞 喜志邦三 曲 内田元

国民歌謡(家族で歌える歌)普及のため1936年〜1941年の間、月々土曜の正午頃、ラジオで一週間流した新曲の一つ。内田は東京音楽学校卒で東京シンフォニーを主宰。作曲する一年前、新天地を求めて関西に移転。阪急西宮北口市場(阪神大震災で壊滅したが最近再開発)の情景が描かれている。

ラララ赤い花束 車に積んで  
春が来た来た 丘から町へ  
すみれ買いましょ あの花売りの  
かわいい瞳に 春のゆめ  
ラララ青い野菜も市場について  
春が来た来た 村から町へ  
朝の買い物 あの新妻の  
かごにあふれた 春の色

後略